

大隅半島の農業立地区分

早川康夫(九州農業試験場)

HAYAKAWA, Y. : Division of Agricultural Location in the Osumi Peninsula

鹿児島県大隅半島は始良よび阿多カルデラを流出源とするシラス台地からなり、九州を代表する畑作地帯もしくは複合経営地域と評されている。

半島基部に分布する始良シラス域は、去川—鹿尾構造線と鰐塚山地との間に生じた地構状陥没域にシラスが流れ込み、台地をつくったもので、基盤の四万十系堆積岩(不透水層)上を2500mmを越える雨水が滲透底流し侵蝕して迫谷を作った。これを概略3つに縦区割し、錦江港沿い、中央低地、鰐塚山地寄りとした、錦江港沿いの山地は、基盤堆積岩上に火山岩およびカルデラ噴出時の熔岩(灰石)をのせるが、節理が発達し、山頂部は水分に乏しくて草原になるが、割目に水を貯えて常時湧水をだす。ここを水源とする菱田川およびその支流は常時豊富な水を供給し、この山地および河川に水源を求めるかんがい用水もまた水量が豊かである。このため錦江港から中央低地の間に、多くの細流迫谷が集中するが、迫谷はもちろんのこと台地上でも昔からかんがい用水を導き水田が作られてきた。その代表が末吉町高松、猫塚、輝北町二子塚などで、用水が豊富なため標準栽培の水稲が作られる(早期米ではない)。中央低地は菱田川が月野川、大島川を合する大隅町荒谷、大迫、有明町山重附近が中心で、侵蝕がいちじるしく広い凹地形をなす。迫谷は水田、台地上は畑で、迫谷に住居を構え、台地上に通い作をする(月野部落など)。鰐塚山地寄りはこの山地が堆積岩よりなるため、底流水に乏しく迫谷の発達が劣る。またこの地区の台地はシラス層がやや厚さを減じているため台地上に住居を定めるが、大半は畑作である。海岸寄りの低地に、乏しいかんがい水を導いて水田を作るが、梅雨を活用しての早期米が主になっている(3月田植—8月刈取り)。

高隅ダム—志布志を結ぶ線以南は、串木野—桜島構造線の延長として、基盤堆積岩が一段下り、海面下々落ち込んだため底流が起きず、断層沿いの肝属川に囲まれた大きなブロック台地として残った。その代表が笠野原で6000haのシラス台地だが、高隅ダムの水をひいて、水田化が計画された。高隅山は花崗岩よりなり、供給水量は大きい、台地の面積が広すぎて、水田化しても台地の1/4を満たすにすぎない。その後稲作の制限で計画が中途半端に終り、今は多種作物があたかも家庭菜園のごとく混然と作付られているが、主幹作物は、甘しょ、陸稲、里芋などである。またこの地区は基盤が低いために河川流域には3段余に及

ぶ大きな河岸段丘が発達するが、高位段丘面は用水不足で高隅ダム—志布志断層線寄りの堆積岩丘陵のふもとよりに早期田が、また低位段丘面から海岸にかけての低地にも早期米が作られている。

大隅半島始良シラス域は、以上4つに立地区分したが、この地区全体の営農方向として、古くから水田化に異常な熱意が注がれていて、広大な畑地があるにもかかわらず畑地で経営を自立させようとする動きに乏しかった。大正年代一時桑の作付が200haに及んだことがあるそうだが、とくに笠野原のような酪農適地に、東原部落を除き酪農が導入されなかったことに疑問を抱く。専業農家率40%の高率だが、高齢農家が異常に多く、九州の代表的畑作地帯とはいえないながら、農家所得が極端に低くて経営的に再展開の難しい地区である。

阿多カルデラは、辻岳を外輪の一端とし、薩摩半島鬼門平断層崖に至るカルデラだが、大隅半島では大根占から伊坐敷の海岸沿いに、熔岩流、シラスの分布が限られている。熔岩台地上は畑地としての立地景観を持つが、甘しょ、陸稲、里芋など雑多な作目を、海岸低地の水田農家が副次的に通い作しており、畑作の自立的経営はみられない。台地上の畑にかんがい水を導いて水田化しようとする意向はことのほか強く、栗之脇部落は辻岳裾より導水し水田化を果たした。野尻野は熔岩台地上の古くからの草原で、草地造成され、肉牛の放牧採草地として迫谷水田農家に共同利用されているが、これも酪農家を入植させた方が、効率が高い。

肝属山地はマサ化した花崗岩よりなり、ほとんど有効利用されていない。山林もおおむね雑木で被われ、わずかに内之浦湾の溺れ谷を干拓した水田がみられるだけである。花崗岩山地は中国地方、福岡県などに分布するが、いずれも農地利用率が低い。

以上のように大隅半島は九州の代表的畑地帯といわれながら、農業生産は余り芳しくない。鹿児島県内でも開拓植民地とみなされ、とくにシラスは地力瘠薄で、崩壊しやすい劣悪地といわれてきたが、農業はこのシラスを中心に営まれているのであり、これに対し堆積岩、花崗岩域はさらに利用度が劣る。火山灰地でも最近の高い生産を挙げている集落が数多く現れ、畑作の中心は火山灰地とみなされるようになってきた。農業不振の責任を立地条件に転嫁しては前進できない。